

第1回みやき町新しい教育環境づくり検討委員会会議録（要旨）

招 集 年 月 日	令和7年6月18日（水）		
招 集 場 所	みやき町コミュニティーセンター（こすもす館） 1階 研修室		
開 閉 会 日 時	開 会	令和7年6月18日（水）	10時00分
	閉 会	令和7年6月18日（水）	12時00分
出席委員並びに 欠席委員	職 名	氏 名	出 欠
	委 員 長	峯 晋	出 席
	副 委 員 長	坂井 清隆	出 席
	委 員	末次 優	出 席
	委 員	岡 友清	出 席
	委 員	益田 清	出 席
	委 員	古川 修一	出 席
	委 員	原 徹也	出 席
	委 員	江島 裕章	出 席
	委 員	内山 愛子	出 席
	委 員	最所 正和	出 席
	委 員	宮原 卓也	出 席
	委 員	井上 哲誌	出 席
	委 員	宮原 隆宏	出 席
	委 員	古賀 國博	出 席
委 員	江頭 広史	出 席	
委 員	古賀 祥子	出 席	
委員及び事務局を除く委員会に出席したものの職氏名	—		
出席した事務局の職員の職氏名	みやき町教育委員会 教育長 一木 徹也 事務局長 黒田 栄治 学校教育課 課長 福島 隆二 同 課長補佐 江島 裕二 同 係長 福江 健太朗		
委員会の議事等の要旨及び概要	<p>1 開会 （進行 … 黒田事務局長）</p> <p>2 教育長挨拶 （一木教育長）</p> <p>本町には小学校が4校、中学校が3校、合わせて7校の学校がありますが、このうち6校の校舎が築40年以上経っています。</p> <p>古いところでは築60年という校舎もありますので、子どもたちの安全安心、快適な学習環境という観点から見ると、改修・改築等を含め、早急に対応していかなければならない課題と考えています。</p> <p>ただし、校舎の改修・改築、学校統廃合ではなく、この検討会の名称を「新しい教育環境づくり」としたことは、未来のみやき町を見据えたときに、学校を中核とした地域づくりを考えていかなければいけない、また現時点で古くなったからどうにかするということではなく、40年、50年先を見越した教育環境づくりを考えていかなければならないとの思いが大きな理由です。</p>		

新しい教育環境づくりは、みやき町の基本理念である「未来に躍動する共感・協働のまちづくり」の重要な柱と考ます。

委員の皆様には校舎の改修・改築、学校統廃合だけではなく、教育環境づくりの視点に立ち、その方向性について考えていただきたく思います。

子どもたち一人一人の学力、心の教育などの学習効果の面で、どのような環境がいいのだろうかという視点、また地域コミュニティの中核としての学校のあり方という視点。

このような視点から40年後、50年後を見通した、みやき町の未来を支える新しい学校、地域づくりについて検討していただきたいと考えているところです。

学校は、子どもたち一人一人の人生に関わってきますし、地域の未来に関わってくるものだと思います。

委員の皆様には数多くのご意見をいただきますように、よろしく願いいたします。

3 検討委員会委員の委嘱・任命

(省略)

4 委員及び事務局の紹介

(省略)

5 委員長及び副委員長の選任

委員長 … 峯 晋 委員

副委員長 … 坂井 清隆 委員

6 検討委員会への諮問について

一木教育長から峯委員長及び坂井副委員長に対して諮問

7 検討委員会の設置目的について

(説明 … 福島学校教育課長)

本日は第1回目として、検討委員会の設置目的及びみやき町の小中学校の現状につきまして、皆様方に把握をしていただきたいと思います。

委員の皆様の共通認識のもとで、子どもたちにとって望ましい教育環境づくりについて、今後の検討を行っていただければと思っていますので、よろしく願いいたします。

(以下、「みやき町新しい教育環境づくり検討委員会設置条例」「新しい教育環境づくりの検討について(イメージ図)」「【概要資料】新しい教育環境づくり検討委員会」により説明)

【質疑応答】

(委員) 12月に本検討委員会の設置条例が可決されたということですが、その時に何か意見があったのか教えてください。

(事務局) 議員からは、校舎を改築する場合の補助金の有無、町の財政負担についてご質問・ご意見をいただきました。

議会では兵庫県に先進地視察を行われていますので、情報提供をいただきました。

また、内部協議と外部協議の二つ協議の場合における意見がずれた場合はどうするのかという意見をいただきましたが、内部協議では基礎資料の作成を行い、その資料を元に外部協議、つまり本検討委員会で教育環境づくりの方向性について検討を行っていただく形であることを説明いたしました。

(委員) 兵庫県への視察研修について、概要をお聞かせ願えますか。

(委員 … 議会代表) 昨年、兵庫県たつの市と多可町を見学させていただきました。

財政面の問題について、PTA・学校・教育委員会が一体となってよく話し合いながら進められてこられた印象です。

特に、通学支援バスについて、学校から自宅までの距離が一番遠い所で 22km とあまりにも遠いため、バスではなくてタクシーが必要ではないかなどの意見がありました。

また、学校の規模に重点を置かれて進められている印象があり、例えば三根東小学校のような 1 学年 1 クラスで児童数が 20 数名というケースで、利点と弊害を議論し、学校の規模を踏まえた上で目的をもって学校の合併を考えられていたように思います。

両市町では、学校の統廃合をメインにお話を聞かせていただき、小規模校が増えてきている点では、みやき町とは状況が違う部分がありましたが、その中でやはり避けて通れない財政の問題を丁寧に説明していただきました。

この委員会の中でも財政問題を議会として提示していけたらと思っています。

(委員) 検討委員会のスケジュールについて、今日が 1 回目、9 月に 2 回目の予定で、12 月の 3 回目の後、令和 8 年 1 月に教育委員会の方針を決定すると示されていますが、任期が 2 年となっている一方、そのペースで進むものなのかお伺いしたいのですが。

(事務局) 本検討委員会は、地方自治法第 138 条の 4 第 3 項に規定する附属機関の位置付けであり、諮問に対する答申で終わりではなく、今後ご意見をお伺いすることとなりますので、ご理解いただければと思います。

今回は、お示したスケジュールに沿って新しい教育環境づくりに関する諮問に対して答申をいただく予定ですが、協議の内容によっては当然長引くことも想定されますので、スケジュールは現時点での案となります。

8 町立小学校及び中学校の状況について

(説明 … 福島学校教育課長 「第 1 回みやき町新しい教育環境づくり検討委員会会議資料」により説明)

【質疑応答】

(委員) 今後の方向性の決定までに大きな反響があると思いますが、保護者や地域住民へのアンケート等は検討していますか。

(事務局) 確かにアンケートは非常に有効な手法と考えています。ただし、まずどのような方向で検討と進めるのかという点について、本日お集まりいただいている各方面の代表者である委員の皆様から意見を伺い、その上で今後アンケートを行う必要があるのかを考えていきたいと思っています。

(委員) この会議は公開でしょうか。

公開であれば傍聴を可能とするか、またはホームページ等で何らかの報告があつてしかるべきと考えますが、いかがでしょうか。

後で知らなかったと言われては取り返しがつかないので、丁寧な説明と、それに対するいろいろなご意見を聞いた上で検討会の場に出していただければ、議論がより深まるのではないかと思います。

(事務局) この会議は特に非公開ということではありませんので、皆さんのご了承いただければ公開とさせていただきます。

また、会議資料と議事録を町ホームページで公開していきたいと考えています。

(委員) 資料1ページで、経過年数が長期になっている建物がオレンジ色で示され、耐力度調査を2箇所で行われていると思います。

このオレンジ表記の古い建物は、合併等を行わない場合、町では建て替えを考へられているのでしょうか。

(事務局) 現時点での方向性は真っ新の状態です。

ただ、建築年数が経過している建物は、今後何らかの改修改築を行っていかなくてはいけません、そのためにも基本的な方針が必要と考えます。

財政的な問題もありますので、例えば7校現状維持という方向性が決まれば、北茂安小学校はもう耐力的にも、すぐに改築の方向で進めることとなります。

しかし、改築はしたものの20年後には統合となれば、それは無駄な工事ということになりますので、まずその大きな方向性として、皆様方からのご意見を頂戴して、それを参考に現状のままいくのか、それとも統廃合を行うのかといった方向性を決めていきたいと考えています。

(委員) 建替事業に対する国の補助率はどのくらいですか。また、補助の対象外の建て替えは全額町の負担ということですか。

(事務局) 補助率は基本的には3分の1ですが、児童生徒数によって求められる校舎の面積に基準単価を勘案して算出された事業費の約3分の1が国からの補助となります。

改築を行う場合は、耐力度調査で一定の点数以下になった場合のみ、改築に対して国から補助が出る形になっています。

一方、文科省の方針としては長寿命化工事を推進しており、建物を壊して造り直すのではなく、今ある建物のベースは残しながら古い部分のみ再生する工事を行うことで費用の圧縮を図るもので、この長寿命化工事にも事業費の3分の1が対象となる補助金があります。

耐力度調査自体にも費用が発生しますので、既に実施している北茂安小学校と中原小学校以外の学校について、残すという方針になった場合は長寿命工事も検討する必要がありますと考えます。

(委員) 校舎をそれぞれ建て替えることとなれば膨大な費用がかかり、国の補助が3分の1程度しかないのであれば、町の負担もやはり大きくなっていくと思います。

将来のことを考えていくと、案のうちケースC又はケースDが一番いいということになるのではないのでしょうか。

(事務局) 財政面も考慮しなければなりません、我々が一番に考えているのはやはり児童生徒の教育です。

その中でどのようなケースがいいのか、財政面を含め総合的に判断して、今後方向性を決めていかなくてはならないと考えています。

どのような方向が子どもたちにとっていいのか、そしてみやき町の将来にとっていいのかという点を踏まえ、今後様々な数値等を提示いたしますので、メリット・デメリットなどを吟味していただいて、議論進めていただければと思っています。

【意見・要望】

(委員) 資料7 ページ中の将来児童生徒数推計は、社人研の推計ソフトを使用し、町独自の推計をもとに計算したものとされています。

令和6年度の6月版でのものでの算出となっていますが、先日国の出生率の修正があり、この算出数値が変わってくるかと思えます。

もし新しい数値が出ていたら、次の会議までに出していただければ幸いです。

併せて、資料9 ページの新しい教育環境づくり案が示されていますが、これらの数値に基づき考えた時に、C案の中でCダッシュがあるのではないかと個人的に考えます。

資料には示されていない組み合わせによる複数の案も検討されるべきではないかと考えています。

新しい教育環境づくり案に、別に示されているメリット・デメリットを一緒に書いていただくと分かりやすいと思います。

(委員) 現在、学校給食を給食センターで作っている学校と、自校式でやっている学校があると思いますが、新しい教育環境づくり案の各ケースで、現状維持や統廃合を見据えられた場合には、給食に要する金額がどうなるのかを資料に出していただけると検討しやすいと思います。

例えば自校式に統一した場合や、全校を給食センターで作る場合など、どのくらい金額に差が出てくるのかを入れていただくと助かります。

(委員) 資料7 ページの将来児童生徒数推計では、2029年が境目になっているような感じです。

約5年後から人口がまた減るかもしれないし、子どもたちも減るかもしれないと私はとらえました。

ここで将来に向かっての教育のあり方や、学校をどのように建てるかという方針を検討することは、ちょうどいい機会ではないかと思えます。

玄海町にある小中一貫校は、佐賀県ではあまり考えられないような形式であり、そのために様々な研究や会議が行われています。

それがいい見本になるのではないかと私は思っています。

教育を通して人口も増加していくという方針まで出せば、非常によいと思っており、この会議の中で色々な意見を聞きたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

(教育長) 資料5 ページに学校適正規模の定義がありますが、これは学校教育法などに定められている文科省が出している定義ですが、この学級数は今後カウントの仕方・捉え方が変わっていく可能性があります。

例えば小学校では長らく1クラスの上限は40人でしたが、最近やっと35人と動き始めました。

今後また動く可能性もありますし、適正な学校規模のクラス数の数値が、通常学級の学級数を基準としたものが特別支援学級を勘案した形になっていく可能性もあります。

学級数にとらわれると、10年後、20年後に大きく変わっているという可能性がありますので、全体の児童生徒数をまずは考えていただけたらなと考えています。

(委員) 資料9 ページの新しい教育環境づくり案ですが、ケースごとに要する金額がどのように違うのかなどの情報を入れていただくとありがたいと思いました。

(委員) 多久ではバスを大量に購入されたかと記憶しておりますが、それぞれのケースで通学に利用するバス費用も算出できればお願いします。

(委員長) この会議では新しい教育環境づくりの検討を行うという事ですので、まず子どもたちにとってどのような形がより良いかを考えた上で、どこまで費用を出せるのかという財政的な点を踏まえて最終的な判断になるかと思えます。

今の時点で考えられるベストな形を答申で出せればと思いますので、次回いろいろな話をお聞かせいただければと思います。

9 今後のスケジュールについて

(説明 … 福江学校教育課係長)

第1回が本日の検討委員会となり、諮問及びみやき町の現状を説明させていただきました。

現時点で想定している案としては、9月に第2回の検討委員会として、本日いただいたご意見や追加資料のご要望を踏まえた上で資料を準備し、もう少し踏み込んだ議論ができる場にしたいと思っています。

現時点では3回目は12月とし、そこで答申をいただく事を目標にしていますが、もちろん会議の内容次第では9月から12月の間や12月以降に会議を行うことを含め、柔軟にリスケジュールしていくことになるかと思っています。

答申をいただいた上で、その後は教育委員会で方針の決定と議会に対しての上程を実行していくという内容になっています。

第2回検討委員会の日程ですが、事務局としては9月24日(水)の10時から、同じ場所で開催できればと思っていますが、その事についてご意見をいただければと思います。

【意見・要望】

(委員) 2回目にもし議論が白熱した場合は長引く事も考えられてるのかお聞きします。

今回に関しては10時からでしたが、長引いた場合も視野に入れて検討していただきたいと思っています。

(委員) よろしければ10時より前倒しは可能でしょうか。

今日の説明だけでもこれだけ時間がかかり、そのあと意見交換もあるので2時間では難しいかなと考えます。

13時からとかの案もあるのかなと思います。

(事務局) では、9月24日(水) 13時30分からとさせていただきます。

開催通知は後日改めてお送りいたしますので、よろしくお願いします。

○ その他意見

(副町長) 先ほどの議論で新しい教育環境づくり案のうちケースCかケースDで考えることになるのではないかと意見がありましたが、全くそういうことはない私は認識しており、まずは教育環境面でどうあるべきかを考える中で、方針をまとめていただくことがいいと思っています。

例えば「統合することを前提に考えてください」ということではないと思っています。

スケジュールとの兼ね合いの点から事務局にお願いしたいのが、今のところ3回の会議を予定されているということで、しっかりと議論するにはなかなかタイトなスケジュールなので、議論できる材料をぜひ積極的に出していただきたいと思っています。

例えば早めに資料を渡していただくなど、議論できやすい形をご準備いただければと思います。

どのような学校の配置がいいのかという点がメインの議論になっていくと思いますが、地域でのあり方や法律の関わりなど、様々な要素を加味して考えることに

当然なっていくと思いますので、その部分の議論の材料になるような資料も積極的に探していただけないかなと思っております。

関係課から情報を収集してもいいと思いますので、いわゆる財政と子どもの数というだけの話ではなく、もう少し広い議論ができるような形で用意ができればありがたいなと思います。

(委員長) 本検討委員会の答申は、A案やB案を行ってくださいという形ではなく、子ども達にとってより良い環境になるように教育委員会として最終的に判断する材料となる形での答申になると思います。

話し合いの内容をまとめて返すという形として答申し、それを受けて教育委員会が最終的に決定されることから、決まらないという意味ではなく、何らかの回答はするべきと考えます。

よろしくご協力をお願いします。

10 閉 会